



ホームサイン

私の故郷は、とある小さな漁師町。子どもの頃は近所の男の子たちとよく一緒に遊んだものです。ある時、彼らが母親と身ぶり手ぶりで話すのを見て、「このお母さんは聞こえないんだ」と気が付きました。

あれは社会人になって、札幌の手話サークルに入った頃。ふと、その聞こえないお母さんのことを思い出しました。「そうだ！ 今度帰ったら、手話で話しかけてみよう」しかし、私の手話は全く通じませんでした。むしろスイスイ伝わったのは、同じ町に住む私のおぼの身ぶり手ぶりの方。それは、手話を身に付けていない聴覚障がい者が、身近な人とだけ使う「ホームサイン」でした。

畑のじいちゃんの話がほとんどだった二人。私は今も、その姿が忘れられません。

問 障がい福祉課

☎ 72・3194 FAX 75・2270

広告